

遠石小だより

平成23年 3月
周南市立遠石小学校



平成22年度学校評価結果

本校では、点検型（学校運営全般）と目標管理型（教育目標設定）の学校評価を年2回実施しています。この評価により学校運営の見直しや目標達成状況のチェックをし、改善に役立てています。今年度は、学校関係者委員会を立ち上げ、2回目の会議で、学校の自己評価をもとに、意見や感想及び評価をいただきました。その結果〔業務改善は省略〕をお知らせいたします。（※評価は3段階…A、B、C）
ご意見・要望等ございましたら、ご連絡ください。（遠石小学校 Tel 21-0246）

領域	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者の意見等	評価
学力の向上	児童一人ひとりに確かな学力の定着を図る。	・フリータイムを利用して「漢字、計算」の小テストを行い、個別の支援を行う	・達成度76%であり、定着度に個人差が見られるようになった。今後、さらに個別指導を強化するとともに、わかる楽しい授業の実践による主体的に学ぶ意欲の向上、家庭学習習慣の定着を図る必要がある。	・個人指導、少人数指導をしっかりと実践している。 ・表現力もついてきているので、継続指導を望む。	B
		・学期に1回児童自己評価に基づいた授業改善を行う。 ・一人1授業公開を行う。	・今後、わかる授業の工夫や指導力向上に向けての研修等をさらに深めることにより、改善が見込まれる。		
心の教育	コミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係を築こうとする態度を育てる。	・チャレンジ目標「明るいあいさつをしよう1日10回以上」を達成するため、振り返りカードを活用し、意欲の向上を図る。	・児童会活動を利用して全校児童に呼びかけをするなど努力したが、さらに保護者・地域との連携を図りながら取り組んでいく必要がある。	・大人からも進んであいさつをする必要がある。 ・親子ともメールでのやりとりが問題となることがある。 ・核家族化が進み、親の相談相手も必要である。	B
		・チャレンジ目標「たくさんのお本に親も1か月低学年8(中学年6)(高学年4)冊以上を」を達成するため、振り返りカードを活用し、意欲の向上を図る。	・達成度は、83%であった。児童会活動を利用して給食時の放送で読書の呼びかけや読書クイズ、読書量の表彰などの工夫をすることにより、改善が見込まれる。		
健康・安全	心身ともに健康でたくましく、がまん強い児童の育成を図る。	・早寝、早起きを奨励するため就寝時刻の目標を決め、保護者と連携を図りながら取り組む。	・達成度82%。大半の子どもは就寝時刻が決まっているが、約2割の子どもにおいては、不規則な生活が見られる。家庭の事情のある子どももいるが、さらに保護者と連携を図りながら取り組んでいく必要がある。	・テレビ・ゲームの時間を決めて実行させるには、家庭の協力が不可欠である。 ・帰宅時刻を守らせるには、保護者の共通理解・協力が必要である。	B
		・感染予防対策のため、手洗い・うがいの定着を全教職員で指導に当たる。	・手洗い・うがいの達成度は、70%であった。大半の子どもは手洗い・うがいを行っているが、3割の子どもは定着していない。さらに、保護者と連携を図りながら取り組んでいく必要がある。		

<取り組みの成果と課題>

- 1 基礎・基本の「確かな学力」の定着は、フリータイムを利用して「漢字、計算」の小テストを継続して実施するなど、学力の向上に向けた取組を全学年で行った。保護者のアンケートからも基礎的な学力の定着度が75%とその成果が表れており、今後も年間を通した継続的な取組を進めることが必要である。
- 2 あいさつや読書の定着は、振り返りカード等を活用し、児童の意欲を図りながら全学年で取り組んだ。保護者のアンケート結果から家庭での読書量の評価度(67%)が低く、今後も年間を通した継続的な取組を進めることが必要である。
- 3 早寝、早起きの定着は、保護者アンケート結果では28%の児童が「あまりあてはまらない」の段階である。今後も年間を通した継続的な取組を進めることが必要である。